

(10) 造形教育研究会

会 長 山崎 源生 (県立中村中学校)
副会長 明神 通恭 (市立中村中学校)
事務局 尾崎 浩史 (市立中村中学校)

1. 研究主題

「 喜びと自信を持ち、主体的に取り組める造形教育 」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会 場
令和1年 5月8日(水)	四万十市教育研究大会組織総会 ○役員選出 研究主題設定 年間計画	中村南小学校
7月31日(水)	第1回 学習会(実技講習・作品交流会) ○実技内容「一版多色版画の指導について」 講師 山崎 源生 先生 (県立中村中学校) ○交流内容「児童生徒作品を用いての指導・実践交流」	市立 中村中学校
10月31日(木)	第2回 学習会 研究授業に向けての指導案検討	東山小学校
11月13日(水)	○研究授業 題材名 「ごちそう パーティーを はじめよう」 指導者 博田 れな 先生(東山小学校) ○研究協議 司 会 岸本 和幸 先生(中村西中学校) 助 言 明神 通恭 先生(市立中村中学校) ・授業の振り返りや、今年度の成果と課題 等	東山小学校

3. 第1回学習会(実技講習)

○版画(一版多色)の基本指導について

《道具の使い方》

- ・彫刻刀の種類と使い方

一版多色では、主に三角刀と切り出し刀を使用。線の太さにも変化をつける。

- ・板材

彫る面にあらかじめ色を塗ると、彫った線(面)がわかりやすい。

- ・絵の具

水彩絵の具でもポスターカラーでも可。ただし印刷する紙が黒なので、暗い色は映えない。
絵の具の水分量にも注意(水が多すぎると横にはみ出し、少ないと色が十分刷れない)。

- ・バレン

円を描くようにこする。絵の具を乾かしてから同じ場所に違う色を刷ると重色の効果がでる。
こすりすぎると板に紙が貼り付くので注意。



《研修後の感想》

- ・使ってみることで教材について知ることができるので、今日は新しい素材の版画が作れて良かったです。作品交流では小学校でモダンテクニックやレタリング、図法の基礎になるものを楽しんでいるので、中学校で表現に取り入れられるように指導していきたいです。
- ・また別の機会にでも、彫刻刀の持ち方や刃の進め方など教えていただけるとありがたいです。
- ・実際にやってみると、色の乗せ方を工夫することで、さらに重い表現もできるし、水分量の調整、リトグラフ的な技法の可能性など発展させることができそうで、ワクワクしました。
- ・彫刻刀を使って彫りましたが、今回の教材だとニードルやヘラも使用可能ということなので、小学生にはとても使いやすいのではないかと感じました。定規やくぎ、ビー玉など、身の周りのものを工夫することで、創意工夫や意欲が湧くのではないかと思います。
- ・今までは木版でやっていましたが、今日の素材は大変彫りやすく、線の強弱も容易につけることができ、彫りの時間短縮になると感じました。
- ・ただ子どもにさせるだけでなく、実際に自分がしてみると思ったようにできない所なども分かり、子どもへも有効な指導ができると感じました。
- ・毎回のことですが、色々と新しいことが学べ、有意義な会となっています。今回もとても勉強になりました。
- ・インクを使わず気軽に絵の具を使って色つけができるので、子ども達も楽しくできると思います。
- ・教える側である教師が作品づくりの楽しみを味わっておくことは、とても大切だと改めて感じました。
- ・作品交流も描き方や作り方を実際に先生方に聞くことができたので、学校でもやってみたいと思いました。
- ・次は小学校の先生が講師をして、小学生になったつもりで制作してもいいと思います。あるいは、新学習指導要領の実施状況の共有も大切だと思います。

4. 教科部会研究大会

(1) 授業者より

- ・（教師の説明中にも）手を止めることができない子がいる。
- ・「ごちそうパーティー」を楽しみにしてきた。ワークシートも一生懸命描いた。
- ・キーワードを、教えてもらった通り黒板に提示した。
- ・時間がすごくかかってしまったが、子ども達はよくがんばっていた。

(2) 参観者より

- ・自分で考えたことが形になる。素晴らしいことだ。やがては絵画や彫刻につなげていける。
- ・自己決定、自己肯定感が育まれる。作ることは楽しいことなんだなあと改めて感じた。
- ・25人もいたら大変だ。楽しみにしていたことが、ひとり一人の表情から感じ取れた。
- ・学習規律は日々の他の教科でも必要なもので、頑張ってください。
- ・粘土は使うようになるまでは机の上に持ってこさせない（触って説明が聞けないので）。
- ・「蟻が食べに来よう。」など、観察からくる表現のおもしろさ、「これだけは食べさせて」といった意欲的な言葉などが聞かれた。
- ・「気づき」や「楽しみ」といった教育目標に沿った授業になっている。

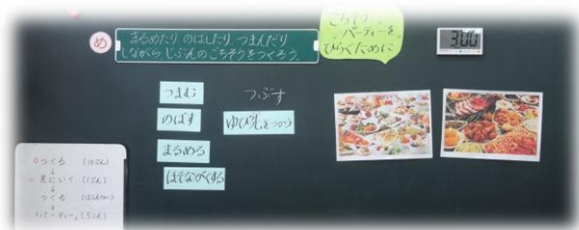
Q. 「作りたくない子ども」への手立てをどうすればいいだろう。

A. 作り物の「食品サンプル」などを見せてイメージさせるとよい（ピザも実際に食べたことや作ったことがないのでは）。

Q. 自分の（作品の）ところで食べていたが、友だちのところで食べるような立食パーティーにするにはどうすればいいだろう。



- A. 少しずつ回って（移動して）食べるようにすると、全体が見えてくる。
- Q. 言語活動を学びにつなげるには。
- A. よくあるのが、子どもに発言させて先生がその感想を言う。意見を言った子に「どんなところ？」とか返して更に考えさせたり、周りの子にどう思っているか“ふって”みるとよいのでは。



5. 今年度の成果と課題

《夏の研修会》

- ・一般的な、木の板を彫って黒インクで刷る方法ではなく、ボードを彫って絵の具で刷るといった形は魅力的で、授業に取り入れてみたいと思った。自分が体験することで大変勉強になった。
- ・黒の紙の効果的な使い方（黒の残し方）が参考になったが、作品交流も後半にあったので、時間が足りなかった。秋の授業研の後で作品交流をするというやり方もあるのでは。
- ・これまで【工芸（焼き物）】→【粘土】→【絵画】→【版画】と研修してきたが、デザインはやっていない。ポスターなど授業で扱うこともあるので、取り入れてみてはどうだろう。
- ・公民館建て替えにともなって、窯はどうなるのか。→担当者に確認。

6. その他（情報交換等）

- ・6年生で卒業制作としてオルゴールを彫刻することがあるが、図柄にキャラクターを選ぶことが多い。テーマの選択はどうするのがよいのか。→どうしてもキャラクターを入れたい時は、浮き彫りさせて中を描くようにしては。→浮き彫りの解説
- ・小学校では彫刻刀を買わせているのか。→学校にあるものを使わせているが、購入する子もいる。
- ・せっかく制作するので、いつまでも使っていけるような作品を作らせたい。
- ・来年の申し送りに木彫（浮き彫り）も入れる。
- ・来年度も輪番ブロックで、役割分担していく。

2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
南部	北部	西部	中央
下田小 竹島小	蕨岡小 利岡小	具同小 中筋小	東山小 中村小
八束小 西土佐小	川登小 大用小	東中筋小 中筋中	中村南小 市中村中
下田中 八束中	大用中 後川中	東中筋中 中村西中	県中村中
西土佐中	大川筋中 蕨岡中		